

令和8年度

相生中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○「わかる・楽しい」授業の実践による学力の育成

校長

吉岡 博文

学力向上推進員

田中 萌絵

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

教員のアンケートにより、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○知識・技能の習得のために、意欲的に取り組む生徒が多く、基礎的な知識が身に付きつつある。 ●知識・技能の定着や活用に課題がある。	・基礎的な知識・技能を確実に身につけ、学んだことを活用することができる。	・授業内で学んだことを活用したり、振り返ったりする時間を設ける。 ・知識・技能を定着するための分散学習を行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○粘り強く考えたり、他者に自分の意見や考えを伝えたりすることができる。 ●自身の考えを、得られた情報をもとに問い直して深めたり、根拠を示しながら相手にわかりやすく伝えたりすることに課題がある。	・他者の意見を取り入れたり、情報を活用したりすることで、自身の考えを深めたり、他者にわかりやすく伝えたりすることができる。	・他者と意見や考えを共有したり、比較したりする活動を積極的に取り入れ、それらを踏まえて同じ問いについて、再度考えさせる機会をつくる。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して他者と協力しながら一生懸命に取り組むことができる。 ●学習内容と日常生活とを関連させ、意欲的に学習に取り組むことに課題がある。	・学習内容に興味を持って主体的に取り組むことができる。	・生徒の実態を把握し、生徒の関心のある内容や日常生活との関連を感じられるような工夫を授業に取り入れる。 ・生徒が自身の変容に気づくことができるような成果物をストックし、機会を捉えてフィードバックする。			